

秋の叙勲(消防関係) 受章者を紹介

令和3年度秋の叙勲において受章した本町関係者のうち、消防関係の受章者2人に対する伝達式を12月2日、町役場で行いました。高橋町長から佐々木清一さん、細川徳男さんへ勲記と勲章を手渡し、長年にわたる功績をたたえました。

ここでは、各受章者の受章の喜びなどを紹介します。

団員の安全第一 消防団活動に精励

昭和36年、矢巾村時代に消防団に入団した佐々木さん。第2分団8部の部長を務めた後、平成元年から分団長、同3年から町消防団本部の副本部長と要職を歴任しました。

平成8年までの35年間、地域での火災予防の呼び掛けや火災現場での対応など多くの活動を経験。

「当時から農業を営んでいるが、いざ火事となると仕事を止めて、現場へ急いだ」と現役時代を振り返り、「火災現場では、団員が火元へ近付き過ぎないように注意を払い、団員の安全を常



瑞宝単光章
佐々木 清一さん
(元・町消防団副本部長)
広宮沢一区

に考えて活動に当たった」と話しました。

昼夜を問わず現場へ駆けつけなければならぬ大変さもある中、「地元の方々が『苦労さん』と声を掛けてくれることがうれしかった」と話し、地域の支えに感謝しました。

佐々木さんは「賞をいただくことができ、ありがたい。団員の皆さんと一緒に活動できたことが、一番の幸せ。消防団には地域の皆さんの生命財産を守るため、活動を続けてほしい」と受章の喜びと今後の消防団への期待を話しました。

つながり実感 地域の支援に感謝

細川さんは昭和43年入団。平成3年に第1分団3部の部長に就任後、同5年から副分団長、同6年から分団長を務めた後、同9年に町消防団本部の副本部長に就くなど要職を歴任。平成18年3月まで38年間、消防団活動に尽力しました。

各種取り組みに携わる中で感じたのは「人とのつながり」。消防団活動を支える後援会をはじめとする地域住民の温かさが、団員として活動する上での熱意につながりました。

「火災予防運動で管内をポンプ車で巡り、火災予防



瑞宝単光章
細川 徳男さん
(元・町消防団副本部長)
土橋

を呼び掛ける活動の途中、家から出てきてくれる方もいて、わざわざ飲み物を持ってきてくれた。それがありがたかった」と振り返りました。

細川さんは「皆さんのおかげで受章できた。(町役場での伝達式では)後輩の方々にも声を掛けていただき、胸に迫るものがあった」と話し、「消防団に所属していた当時は、全焼火災の現場に立ち合ったこともある。やはり、火事が起きないことが一番。火災のない町であってほしい」と願いました。

さらなる飛躍の年に！

陸上・ジュニア五輪カップ

U-18 女子 800m 1位

田中 希歩さん



JOC ジュニアオリンピックカップ
 未来のオリンピック選手育成を
 目的に開催。陸上を含め、JOC に
 加盟している各種競技連盟主催に
 より行われています。

矢巾中学校出身の田中希歩さん(盛岡誠桜高校2年)は、10月24日に行われた*JOCジュニアオリンピック(五輪)カップ陸上競技大会の女子800m(U18)で1位に輝きました。全国の舞台での初優勝を遂げての思い、高校生活最後の1年に向けた抱負を聞きました。

—ジュニア五輪カップを終えての心境は。

田中 すぐに1位になった実感は沸かなかったが、大会から戻ってきて周りからおめでとうと言ってもらうなどして、ようやく実感を持てた。

また、中学校の恩師からお祝いのメッセージが届いたこともうれしかった。

—優勝を決めた決勝レースはどんな思いで臨んだか。

田中 今まで全国大会は予選や準決勝で終わっていたので、まずは全国の舞台で決勝レースまで進出することを目指していた。決勝は自分よりタイムが早い選手が多かったが、表彰台を目指そうと、気持ちを切り替えた。

—今後の目標は。

田中 高校3年、最後のインターハイで決勝進出、3位以内を目指したい。そして、県の高校女子800mの県記録(2分8秒92)を更新したい。(自己ベストは2分9秒63)。

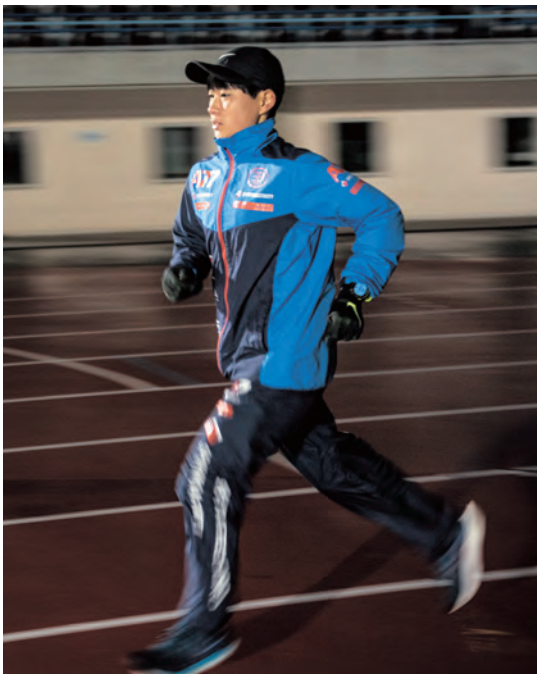
—その達成のため意識していくことは。

田中 今後出場していく大会の各レースでは、最初の400mのペースが早いことが予想される。スピードを付ける練習に取り組んでいきたい。

—高校最後の1年に向けた抱負を。

田中 今年は高校生活最後の年を迎える。一つ一つのレースで力を抜かず、「誰よりも陸上に懸けている」という思いを強く持ち、自分が納得できるレースをしたい。

自分の目標達成のために今できることに全力で取り組んでいく。今後の部活動や大会への出場を通して、競技力の向上だけではなく、人としても成長できるように頑張りたい。



練習に取り組む田中さん
 (11月26日・県営運動公園陸上競技場)